

上越市における体育科教育の取組について

部長 蟹澤 宏光

1 はじめに

生涯体育につながる観点からも、体力の向上や心身の健康の保持増進には、児童生徒が自ら進んで運動に親しもうとする資質や態度が不可欠である。児童生徒に望ましい力を身に付けさせるために体育授業の果たす役割は大きく、体育授業の一層の充実が必要である。そのためには、今後更なる指導内容・方法の検討を重ね、指導力の向上を図らなければならない。上越市では、授業力・指導力の向上を目指し、上越市学校教育研究会保健体育会において、授業研究を研修の柱に据え、研鑽を積んでいる。

2 今年度の実践

保健体育部会では、研究主題を「主体的に考え、運動に進んで取り組む児童の育成」と設定し、研修を継続している。

今年度も、この主題のもと公開授業を行い、その後の協議会では、上越教育大学の准教授から体育科授業のあり方について指導をいただいた。

なお、この保健体育部会は、小学校教員だけでなく、中学校の保健体育科担当教員も参加し、小・中学校の連携を図ることも目的の一つとして行われている。今年度は、中学校1年生の公開授業を中心に研修会を行った。

<今年度公開授業>

○单元名：器械運動「マット運動」 第1学年

○研究主題とのかかわり

今回の公開授業では、本研究主題を受け、研究主題に迫るための手立てを以下のように設定した。

- ・ウォーミングアップの工夫
- ・練習の場の工夫
- ・タブレット式端末機の活用
- ・生徒の自己観察カードの活用

○実践内容について～グループ協議から～

- ・タブレット式端末機を利用した授業が大変参考になった。上越市内の学校でも利用するためのシステムが簡易になり、試す機会があればぜひ実施したい。
- ・小・中学校のマット運動の接続の在り方や効果的なツールの活用方法など、考えさせられる内容であった。
- ・小中連携においては、中学校区内で達成目標を定め、この段階でここまで達成しようというような、評価の統一を図るとよい。
- ・小中それぞれの段階に応じて、学ぶべき基本動作、学習規律、運動への意欲などを意識的に高めていくようにすることが必要である。

<今年度研修会>

上越教育大学の周東先生を講師にお迎えし、体育科授業の在り方についてのご指導をいただいた。

講話の中で、「運動観察」を小学校の段階から無理なくスタートして欲しいとあった。特に、自分の動きを観察する自己観察が大切であり、運動をした後に、自分の動きを振り返る場面を設けるべきであるのご指導あった。

今回の研修では、「授業のユニバーサルデザイン化」も視点においたが、体育においては、動きの指導法や授業の進め方においてではなく、学習課題において可能なものであるとのことと、小中連続の課題共有に取り組むなど、いきいきとした授業、画一的にならない授業を目指すべきであるのご指摘いただいた。

3 終わりに

生涯に渡って運動に親しむ資質を育てるのが、学校体育の重要課題である。その意味で、体育授業をどのように組み立て、授業改善を図るかが問われている。上越市では、毎年の研修の機会を大切にして、教師の指導力向上へとつなげられるように取り組んでいる。また、小中の連携を深め、発達段階に応じた指導を充実させるとともに、小中間の格差をなくして次のステージにつなげていくように努めている。

